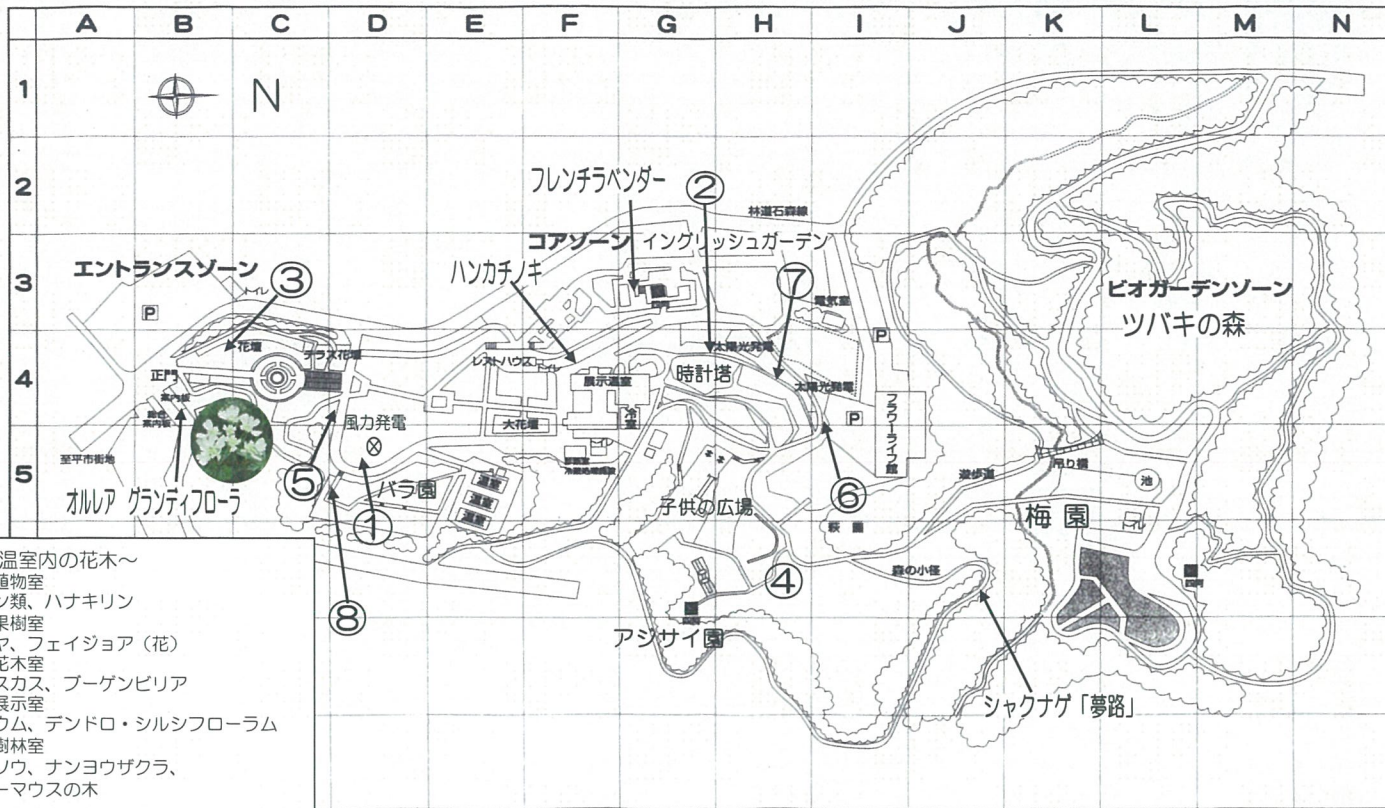


# フラワーセンター【5月の花】

2022年度 5月11日更新

※園内の植物の盗難が相次いでいます。  
園内の植物は絶対にとらないでください。



- ～展示温室内の花木～
- ・多肉植物室
  - サボテン類、ハナキリン
  - ・熱帯果樹室
  - パパイア、フェイジョア（花）
  - ・熱帯花木室
  - ハイビスカス、ブーゲンビリア
  - ・鉢物展示室
  - ゼラニウム、デンドロ・シルシフローラム
  - ・熱帯樹林室
  - コエビソウ、ナンヨウザクラ、
  - ミッキーマウスの木
  - ・冷室
  - メキシコマンネンソウ

## ①ネモフィラ (風力発電下)



ムラサキ科 一年草 原産：北アメリカ  
ネモフィラは森の妖精のような、澄んだブルーの花が愛らしく、春の花壇やコンテナの寄せ植えなどに多く利用されています。細かく切れ込んだ葉が密に茂り、自然に分岐して咲きながら大きくこんもりと成長します。

## ②フジ (時計塔向かい階段)



マメ科・つる性落葉高木  
日本人には万葉の時代からなじみのある植物です。4～5月頃に蝶のような形をした紫色の小花を房状にぶら下げます。たくさんの品種が存在しますが、主にノダフジ系とヤマフジ系の2つがあります。

## ③ベニバナトチノキ (フラワーセンター正門前芝生他)



トチノキ科 落葉高木 原産：北米南部  
樹高10m～15mに達する高木ですが、低いうちからよく花を咲かせるので鉢植えにしたり、樹高を抑えて庭木に利用されます。主な開花期は5月～6月、枝先に赤紅色の花をまとめて咲かせて円すい状の花穂になります。

## ④西洋シャクナゲ (子供の広場北側のシャクナゲ園他)



ツツジ科 常緑広葉樹 原産：日本、ヨーロッパ  
シャクナゲはボール状に咲く気品のある花が魅力です。日本の鉾山に自生するものを日本シャクナゲ、欧米で品種改良されて日本に来たものを西洋シャクナゲと呼んでいます。

## ⑤ストロベリートーチ (風力発電の南側通路沿い)



マメ科 多年草 原産：ヨーロッパ  
クローバーの仲間でも耐寒性はとても強く、株張り約30cm草丈約40cmになります。八重桜が散り始めるころ、真っ赤なイチゴの果実に似た花穂を数多く枝先につけます。

## ⑥モッコウバラ (フラワーライフ館駐車場のフェンス沿い)



バラ科 常緑つる性低木 原産：中国  
モッコウバラは常緑でトゲがないため扱いやすく、そしてバラの欠点である病害虫や耐寒性・耐暑性ともに強いので、とても育てやすいバラです。花は一季咲きで白または黄色の八重咲で、小さな花が房状に十数輪ずつ咲きます。

## ⑦オオデマリ (時計塔の北側太陽光発電前)



スイカズラ科 落葉低木 原産：日本  
高さが2～3メートルになる低木で、5～6月に球状に密集した花を咲かせます。花は咲き始めが黄緑色で、開くと白色になります。花のかたまりは直径10cmを越し、まさしくオオデマリ（大手鞠）の名がぴったりです。花の咲き方や雰囲気はどこでもアジサイに似ています。

## ⑧ウケザキオオヤマレンゲ (バラ園南側)



モクレン科 小高木 原産：日本、朝鮮半島、中国  
開花時期は5月から6月。  
奥山に自生するオオヤマレンゲとホオノキの交配種で、オオヤマレンゲの花が下向きに咲くのに対して、ホオノキと同様に上を向いて開きますが、花の大きさはホオよりもやや小ぶりです。